

公務員等 2013年度

Y. I. さん（環境教育コース） 国土交通省近畿地方整備局 内定

（3回生）

- 9月 公務員試験に関する情報（試験内容、日程、勉強法など）を一通り調べる。
- 10月～1月 本格的に勉強開始。はじめは数的処理・憲法・経済を中心に過去問を解く。その後、民法・行政法や教養科目などにも取りかかる。授業があったり、就職のガイダンスに参加したりもしていたので、無勉強の日をつくらないように、空いている時間を使って勉強する。
- 2月 模試を受け始める。
- 3月 面接対策などを考えると独学では限界が見え始め、予備校に行き始める。

（4回生）

- 4月 公務員試験が始まり、週1で続けていたアルバイトを辞める。
- 5月～6月 予備校の講義も見終わり、ほぼ毎日家に籠って勉強する。毎週日曜日に試験を受ける。（国立大学法人・国家専門職・国家一般職・地方上級など）
- 7月 国家一般職試験一次試験に合格し、官庁訪問を始める。二次試験（人事院面接）も受ける。
- 8月末 二次試験合格を確認し、採用面接を受け、官庁から内定をいただく。

【なぜ公務員か】

私は3回生の春まで、教員を目指すか、あるいは他を目指すのかを悩んでいました。実際に付属小学校に教育実習に行ったのですが、その時は、大変充実した実習を経験させていただきましたし、教員になって子どもたちのために働くことにも魅力を感じました。しかし、その実習の経験をはじめ、小学校でのボランティアの経験、ゼミでの研究などを通して、地域ぐるみでの教育活動を促進していくことの大切さを感じたり、自転車走行空間や通学路の整備の不完全さに問題意識を抱いたりするようになりました。そのような問題に対して、仕事として携わることができるのは、教員ではなく市役所職員などの公務員であると考えたため、私は公務員を目指そうと考えました。

では、なぜ国家公務員になったかということ、それは第一志望であった地元の市役所職員の採用試験で不合格になってしまったことも大きな要因の一つではありますが、国家公務員として規模の大きな仕事ができるという点や安全で快適な道路空間の整備に携わることができるという点に魅力を感じたからです。

【試験内容】

ここでは国家一般職試験（行政）の試験内容だけを書きます。その他の試験の内容等は各自で情報を得てください。

一次試験は基礎能力試験、専門試験、一般論文試験があります。基礎能力試験と専門試験は全て5択のマーク試験ですので、しっかりと対策をすれば、ある程度の点数は取れます。一般論文試験は、論文の書き方と時事に関する知識があれば書けるはずです。

一次試験に合格すると官庁訪問ができるようになります。官庁訪問とは、一次試験に合格した人が法務局や労働局などの官庁に各自面接を受けに行くことです。国家公務員試験の場合、最終合格＝採用ではありませんので、最終合格だけでなく、どこかの官庁に採用されなければなりません。ですから、官庁訪問は自ら希望する官庁に出向いて、採用の面接を受けに行くことだと思っていただければ良いと思います。しかも、この官庁訪問は官庁ごとに異なりますが、基本的に2～3回あり、1回目は自分で電話をして予約をするのですが、2回目以降は官庁からの連絡をもらってから行くことになります。この官庁訪問期間中に、人事院面接と呼ばれる二次試験があります。

【勉強方法と面接対策】

筆記試験に関しては、様々な勉強法があると思いますが、私の場合、ひたすら問題を解くことを心がけました。とにかく覚える量が多いので、一度頭に入れたことでも、しばらく時間が空いてしまうと、忘れてしまいます。ですから、家にいる時や予備校にいる時はもちろん、電車に乗っているときなどの空いている時間も常に問題を解きました。あとは、新聞を読んだり、『速攻の時事』（実務教育出版）を読んだりして時事問題に対応できるようにしました。時事は様々な科目に絡んでくるので、時事問題が解けるか解けないかで点数が大きく変わってきたので、しっかりと勉強しておくべきだと思います。

面接対策に関しては、6月頃から少しずつ始めました。これは、かなり遅い方だと思います。最初は、小学生の時から現在までの自分の行動（頑張ったこと・失敗したことなど）をノートに書き出して振り返り、自分がどういう人間であるかを考えました。ある程度自己分析ができたなら、予備校でもらった資料を使い、公務員試験の面接での典型的な質問に対する答えをどんどん考えました。その後は、この質問に対する答えをブラッシュアップしながら、話す練習をひたすらしました。一人で練習したり、大学の友人と一緒にしたりしました。また、予備校やジョブカフェで模擬面接も受けました。初めての模擬面接は、かなり緊張しましたが、何度か繰り返し受けているうちに、余裕ができていきました。私は、面接に対してかなり苦手意識を持っていましたが、実際に本番の面接を受けてみると、圧迫面接は全くなかったですし、試験官とただ会話をするという感じの面接が多く、あまり緊張せずに臨むことができました。おそらく、面接は答えの内容よりも雰囲気やマナーが大切なのではないかと感じました。

【試験を通して】

私が公務員試験を通して感じたことをいくつか挙げておきます。

まず、一つ目に、公務員試験の情報をしっかりと得ることです。公務員にも様々なものがありますし、それによって試験の日程や内容、対策も変わってきます。ですから、まず第一段階として、公務員試験について徹底的に調べることが大切だと思います。私の場合は本屋での立ち読みや滋賀大の図書館に置かれている『公務員ジャーナル』（実務教育出版）という公務員試験の雑誌を見ながらいろいろな情報を得ました。公務員を目指そうかとまだ悩んでいる人も、一度公務員の仕事や試験内容について調べてみてください。少しだけイメージが湧いてくるはずです。

二つ目に、本格的に公務員を目指そうと考えている人は、早めから予備校に通うべきだということです。公務員試験は教員採用試験とは異なり、勉強する科目と量が多く、範囲がかなり広いです。一般知識などの教養科目はもちろんですが、公務員試験特有の数的処理という科目や地方上級や国家公務員を目指す人は、憲法・民法・行政法などの法律系科目、ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学などの経済系科目、政治学・行政学・社会学などの行政系科目といった専門科目が必要になります。このような数的処理や専門科目は、教育学部に所属する人にとって、聞きなれない単語が出てくるような問題や、解き方が分からないような問題がほとんどです。ですから、早めから対策しなければなりませんし、特に専門科目は体系的に理解しなければ応用問題が出てきた時などに対応することができません。しかし、予備校は公務員試験の勉強を効率よくすることができ、確実に要点をおさえていくことができます。私は、もともと独学で『スーパー過去問ゼミ』（実務教育出版）などを使って勉強をしていましたが、限界を感じて予備校に行ったことで、内容の理解が一気に深まりました。ですから、公務員を本格的に目指す人は予備校に通うことをお勧めします。

三つ目には、なぜ教員や民間企業ではなく、公務員を目指すのかという明確な考えを持つことです。「なぜ公務員を目指すのか」という質問は、公務員試験の面接の中で最も典型的な質問の一つですが、この質問に対する回答が明確になっていけば、面接での軸ができるだけでなく、筆記試験の勉強が楽しくなった時のモチベーションの維持につながります。はじめは「公務員は安定しているから」といった気持ちで公務員を目指すのもきっかけとしては悪いわけではありませんが、やはりそれだけでは公務員になれないと思います。公務員になったら具体的に何をしたいのか、どんな公務員になりたいのか、自分はどこにどんな問題意識を抱き、どのように改善したいと考えているのかといったことを自己分析の中でしっかりと見つめ直してみてください。必ず回答が見つかると思います。その思いをモチベーションに公務員試験に臨むことが大切だと思います。

【後輩に対して】

公務員試験は勉強量も多く、期間も長いので想像以上に過酷なものだと思います。しかし、対策をきっちりすれば合格できる試験だと思います。ですから、最後まで諦めずに挑戦し、悔いのないように頑

張ってください。応援しています。

A. T. さん（幼児教育コース） 長浜市職員（保育士職・幼稚園教諭職） 合格

【はじめに】

私は元々、教員を志望して滋賀大学に入学したわけではありませんでした。なぜなら、自分には向いていないと考えていたからです。しかし、大学で教育を学び、実習を経験したことで、子どもと関わる仕事がしたいという思いが強くなりました。3回生の11月に学校の教員養成合宿に参加し刺激を受け、先輩から勧められた「畑中敦子の数的処理 基本編」の参考書を買って勉強を始めました。しかし、あまり勉強は捗らないまま2月になり、保育士資格の実習が始まりました。3月も実習だったので、再び教採勉強を始めたのは4月になります。教職実践論Ⅱも始まり、本格的に勉強をするようになりました。

【試験の流れと内容】

一次試験 7月28日(日)

教養試験：10時～12時

社会、人文および自然に関する一般知識ならびに文章理解、判断推理、数的推理および資料解釈に関する一般知識についての筆記試験(高校卒業程度)

専門試験：13時～14時30分(保育士)

社会福祉、児童福祉、発達心理、保育原理・保育内容および保育衛生

15時～16時30分(幼稚園教諭)

発達心理、教育学、保育原理、保育内容および法規

合格発表：8月中旬

二次試験

9月8日(日) 8時45分～12時

集団討論のグループが初めに発表されました(5、6人)。試験内容の順番はグループごとに異なります。

作文：800字 50分「今までで一番自分に影響を与えた出来事または人物」

原稿用紙3枚渡されました。1枚は練習用として自由に使用できました。

保育実技：集団遊び

集団討論のメンバーで「だるまさんがころんだ」をしました。鬼役は全員順番で回りました。鬼以外の役の中で一人、「やりたくない」と言い出すなど、アクシデントを起こす役もいました(アクシデントの内容が書かれたくじを引き、順番ですることになっていました)。

口述試験：集団討論「幼稚園、保育所、認定こども園におけるお弁当と給食のメリットとデメリットを今後の展望を踏まえて」

自分の意見をまとめる時間が5分あり、その後討論35分

メモ用紙が配られて、最後に提出しました。面接官は7人ほどでした。

9月29日(日) 8時半～(試験時間は受験者ごとに異なります)

音楽実技試験：ピアノ(バイエル64、65、66から指定一曲)

歌唱(「しゃぼんだま」「おつかいありさん」「ことりのうた」「こいのぼり」「おへそ」の中から指定一曲)※ピアノを弾きながら歌う

それぞれ8分間練習時間がありました。曲は事前に伝えられていましたが、楽譜は当日渡されるので、自分で練習用の楽譜を探す必要がありました。本番で私はバイエル66と「こいのぼり」を指定されました。

口述試験：個人面接

面接官は7人ほどで、15分程度でした。事前に面接カードが渡されているので、それにそって質問されることが多かったです。例えば、私は絵本の読み聞かせが得意と書いていたので、「絵本を読むことが幼児にとってどのような教育的意義があるか」などと聞かれました。卒論のテーマについても聞かれました。音楽実技試験が先にあったので、それについて自己評価も聞かれました。

合格発表：10月中旬

【試験対策について】

4月中旬から教職実践論Ⅱが始まり、校種でグループに分かれ小論文指導が行われます。それとほぼ同じ時期から幼保のキャリア支援の中井先生に実技指導を隔週でお願いしました。教職実践論と同じメンバーで、団体でお願いしました。中井先生から身体表現や絵本、歌唱などを指導して頂きました。また小論文や面接で使える幼保の様々なトピックスについても教わりました。このことによって、私はモチベーションが上がり、筆記試験対策を再開しました。専門試験対策は、幼稚園ランナーや幼稚園採用試験問題 200 選を使用しました。さらに長浜市は保育士と幼稚園教諭の専門試験を分けているので、保育についての勉強のため「スイスイわかる保育士採用 専門試験」も使用しました。

一般教養対策は「一般教養 30 日完成」と前述の数的処理の問題集を解きました。一般教養は膨大な範囲ですので、すべてを網羅することはできないと思います。広く浅く勉強するような感じでした。政治・経済は出題されやすいので、普段から新聞にも目を通すように意識しました。数的処理は数学が苦手な私でもパターンをつかめるように、繰り返し同じ問題を解きました。数的処理は練習すれば得点源になるので、重点的に勉強した方がいいと思います。基本的にあれこれと参考書に手をつけず、同じ問題集を何周もしました。

また、東京アカデミーの教員採用試験の模試も受けに行きました。12月末からあったのですが、幼保対象のものは行われていなかったの、受けるべきか迷いました。5月に1度だけ幼保対象のものであったので、幼保の試験を控える皆で申し込みました。一般教養と専門教養があり、順位も出ます。あまり参考にはなりませんでしたが、刺激にはなると思います。

長浜市の一次試験は筆記試験だけなので、7月は筆記試験勉強に集中しました。

二次試験対策として、ピアノは「こどものうた 200」を使用して、4月から練習しました。

誰もが知っているような曲が課題曲になりやすいと思ったので、有名な曲をいくつか練習しました。伴奏は楽譜にあるものだけでなく、コードでも弾いてみました。私はピアノがあまり得意ではありませんが、試験は弾き語りなので歌唱の方で頑張ろうという意気込みでした。一次試験の合格通知とともに、二次試験の課題曲が前述のように発表されてからは、その曲のすべてが完璧に弾けるように何度も練習しました。

作文については、例年保育の専門知識の不要なものだったので、教職実践論以外であまり対策はせず、過去に出題されたテーマについて時間内で書き、友達と読みあいを一度しただけでした。

集団討論と保育実技と個人面接については、中井先生に個人指導をお願いしました。集団討論は教職実践論でも練習します。初めは練習だけでもとても緊張していましたが、中井先生に面接で話す内容を見て頂いたことで、自信につながりました。友達とも面接カードを使ってお互いに面接練習をしました。面接は内容だけでなく、態度も大切なので、相手の顔を見て落ち着いて話せるように練習が必要だと思います。集団討論対策は個人面接の対策にもつながっています。

保育実技は過去にはない内容でしたので、どのような内容なのかかわからず、対策に困りました。中井先生に長浜市は運動遊びに力を入れていることを教わったので、鬼ごっこについて指導案を書き、模擬保育をさせて頂きました。模擬保育という難しいパターンを想定しておいたことで、本番はリラックスできました。

【おわりに】

私は大津市民ですが、長浜市を受験したので、なぜ長浜市を受けたのかと面接で聞かれることを想定していました。自分の住んでいる市町村以外を受ける人は、その市町村について様々な視点から調べておくことが必要だと思います。

幼稚園や保育士の試験は市町村ごとに行われるので、小学校など他の教採の時期とは異なります。滋賀県の中でも試験の時期が市町村ごとにいくつかに分かれているので、試験日程さえ被っていないければ複数の市町村を受けられるのが強みです。しかし、その分長期戦になってしまうこともありますので、自分のペースで少しずつでも継続的に試験対策をされるといいと思います。教採対策を通して、励まし合える、相談できる仲間が存在が何よりも大切だと痛感しました。面接や実技の練習をするときは、積極的に自分から動くことも必要だと思います。練習をしっかりとおくことで、本番もあまり緊張せずにすむと思います。本番は、職員の方も緊張を和らげようと声をかけてくださいました。陰ながら応援しています。

H. M. さん（幼児教育コース）

彦根市幼稚園 合格

【採用試験に向けて】

私は、幼少期から漠然と“幼稚園の先生になりたい”という夢を持っており、そのまま滋賀大学に入学しました。大学に入り、大学の講義や実習などで幼児教育について学ぶ中で、幼児期は人格形成の基礎を培う大切な時期であることや、幼児期の遊びは大切な学びであることなどを知り、幼児教育に携わりたいとさらに強く思うようになりました。しかし、現在彦根市には幼稚園教諭と保育士の二つの採用枠があるので、私はその二つのどちらになりたいのか、どちらを受けるべきかについて大変悩みました。大学の友人に、なぜ幼稚園教諭（又は保育士）になりたいのかを聞いてまわったり、二つの良いところを書き比べたりして悩みぬいた末に、私は幼稚園教諭を目指そうと決めました。3回生の11月に、教員採用試験研修合宿に参加をし、合格をされた先輩や現場の先生方のお話を聞き非常に刺激を受け、次の日には早速参考書などを買に行き、そこから本格的に勉強を始めました。

【試験までの流れ】

5月中旬：採用試験募集要項が発表（彦根市のホームページにアップされる）

彦根市の職員採用説明会（今年初めて実施）

6月：願書受付開始

7月28日：一次試験

8月中旬：一次試験合格発表

9月1日：二次試験

9月中旬：最終合格発表

【試験の対策】

○筆記試験

筆記試験は、専門試験（幼児教育について）と教養試験（一般教養と一般知能）の二つがあり、私は3回生の11月から勉強を始めました。専門試験については、『幼稚園ランナー』を2周したあと、『幼稚園採用試験200選』を繰り返し勉強しました。教養試験は、本当にたくさんの範囲があるのですが、数的推理・判断推理と政治経済が多く出ると聞いていたので、そこを中心に勉強をしました。他の範囲についても、自分の得意なところから固めていきました。一つの問題集を繰り返しかえし勉強することで、知識が定着していくと思います。

○面接

彦根市は、一次試験で集団面接、二次試験で個人面接がありました。対策としては、実践論で先生に何度も見て頂くのと同時に、同じ幼稚園教諭・保育士を受ける仲間同士で集まって、何度も練習をしました。仲間とともに面接練習をすることで、他の人の話し方や内容を参考にできたり、自分の至らない点を指摘してもらえたりと、たくさんの刺激があると思います。また、実践論などの面接練習がはじめるまでに、なぜ自分はその職を目指しているのか、なぜその地域なのか、どのような教師になりたいのかなどの考えを整理し、明確にしておくことが大切であると思います。

○実技試験

幼稚園教諭・保育士の実技試験は、ピアノの弾き語りや造形、ダンス、絵本の読み聞かせなどがありました。これらの対策として、4回生の5月から幼稚園教諭・保育士を受ける仲間と共に就職支援の先生にお願いをし、実技全般の対策をして頂きました。また、自分達で音源や絵本を持ちより、筆記の勉強の合間に練習をしました。

【試験内容】

（一次試験）

○筆記試験（教養と専門）→すべてマーク式

（教養試験）

一般教養：政治経済・日本史・世界史・地理・物理・科学・生物・地理・数学など

一般知能：数的推理・判断推理・資料解釈・古文読解・現代文読解・英文読解など

○性格検査→対策はありません。

○集団面接（5人で）

・自己PR。一分半

・どんな幼稚園教諭になりたいか。一分半

・「安心安全」「子育て支援」「特別支援」から一つ選んで、一分間考え一分半で話す。

→どの質問も、手を挙げて当てられた人から話す。

*ほとんど、去年と同じ質問。

（二次試験）

○作文

「子どもが健全に育っていくために必要だと思うものは何か」800字で一時間。

○造形

・3人一組になって、カプラで作品を作り、発表をする。

○個人面接 一人15分程度（予め提出した自己PR書をもとに質問される）

「なぜ公務員か」「具体的にどのような教師になりたいか」

「幼稚園教諭の専門性とは何か」「安心して園生活を送るにはどうすべきか」

「チームワークってたとえば？実際の保育を見て感じたこと。」

「自分が幼稚園教諭に向いていると思うところ」

「保護者対応が難しくなってきたが、どうしたらよいか」「逆質問」

○ピアノ

あらかじめ送られてきた3つの楽譜の中から、自分で選んで弾き歌い。

「ありさんのおつかい」「せんせいとおともだち」「きみたちきょうからともだちだ」

*小学校の音楽室で、窓を全開にして。

○ダンス

・「さんぽ」の楽譜を見ながら、5人で協力してダンスを考える。その後、音楽に合わせて踊る。

【おわりに】

私が無事彦根市の幼稚園教諭の採用を頂くことができたのは、周囲の人たちのおかげです。幼稚園教諭・保育士を目指して一緒にがんばった仲間たち、たくさんご指導をくださった大学の先生方、たくさん応援をくださったボランティア先の先生方、先輩方、そして家族に、本当に感謝しています。一番に子どもたちのことを考えられる、素敵な幼稚園教諭になれるように、頑張っていきたいと思えます。

これから就職に向けて頑張るみなさん、同じ夢を持つ仲間と一緒に、切磋琢磨して頑張ってください。みなさんの夢がかないますように！

